

浜岡原子力発電所 3号機 主タービン軸振動計の不具合について(続報)

2010年11月1日

◆今回お知らせする内容

調査・対応結果	当社は、2010年10月28日に発生した主タービン第1軸振動値の低下原因を調査した結果、振動検出器につながる信号ケーブルの導通不良であることが判明しました。 そのため、2010年10月29日に当該信号ケーブルを取り替えました。 これにより、指示値は正常に復帰しました。
---------	--

◆これまでにお知らせした内容

([2010年10月28日公表](#))

発生号機	3号機 (定格熱出力一定運転中) : 沸騰水型、定格電気出力 110万キロワット
発生年月日	2010年10月28日
発生時の状況	当社は、2010年10月28日午前7時11分に、定格熱出力一定運転中の3号機において、「タービン監視計器※故障」の警報が点灯し、主タービン・発電機の各軸受部に設置している軸振動計の1つである主タービン第1軸振動値の低下(通常 0.02mm 程度から 0mm へ低下)および第1軸振動検出器回路の断線を示すランプの点灯を確認しました。 なお、他の軸振動計および軸受振動計の指示値に異常はなく、主タービンの運転状態に異常はありません。 今後、軸受の温度や他の軸振動計の指示値等の関連パラメータの監視を継続するとともに、原因調査および対応を検討します。
放射能の影響	本事象は、放射性物質の漏えいに係わる事象ではありません。
お知らせ基準	運転情報「表 2-20 その他の事象であって、公表が望ましいと判断したもの。」に該当します。

※ タービン監視計器とは、主タービン軸振動や回転数を監視している装置です。

以上